

チャイナ・レイクの近く。とても乾いた土地



【舞台背景】

「死の同窓会」では、物語がチャイナ・レイク、サンタバーバラ、ロサンゼルスと、前作「暗闇の岬」にはない広範囲(?)に渡って展開する。うち、チャイナ・レイクはアメリカ人なら誰もが知っている海軍の基地で、主にミサイルなどの兵器を開発、実験している。トマホーク・ミサイルなどはここで開発された。

カリフォルニア州南部のモハヴェ砂漠の北西側にあるチャイナ・レイクは、かつてはネイティブ・アメリカンのコンソ族の居住地。コンソ族が描いた何万もの岩石線画が残されている。エヴァンらが野外学習で訪れたのも、こういった歴史的遺産のひとつだった。

何万個と残るコンソ族の岩石線画



サンタバーバラの裁判所(と作者)。エヴァンの父親がここで衝撃的な記者会見を行う



【メグ・ガーディナーのつぶやき】

嬉し、懐かし、腹立たし……エヴァンの同窓会について
「あの描写? もちろん微に入り細に入り自分の経験からよ(笑)。ただし、私の時は誰も殺されたりしなかったけど」

ジェシーを下半身不随にした理由

「暴力や犯罪の被害者は、一生それを背負わなければいけないという理不尽な事実を描きたかった。でもそれだけじゃない。その障害を乗り越えて人生を立て直してく姿も見て欲しいの」

イギリス在住のアメリカ人作家の利点

「アメリカ人にとって当然のことも、他の国ではそうではないと身にしみてわかる。例えば“赤か緑か?”といえはサルサソースの好みを開かれているって、カリフォルニアの人以外は普通、わからないわよね。そういった文化や表現の違いを、わかりやすく書くことを常に心がけていられるわ」

東日本大震災に哀悼の意

メグのブログはかなり素っ頓狂で面白く、多くのファンもフォローしている。そんな中、東日本を襲った未曾有の震災に対する心無い、無責任な意見をメグは一蹴。深い哀悼の意と日本へのエールをメグらしい言葉で述べている。

(<http://meggardiner.wordpress.com/2011/03/21/writing-about-the-earthquake-and-tsunami/>)



©Graham Nixon

「僕のお気に入り」
「死の同窓会」に出てくる連続殺人犯はマルキド・サドとターミネーターを合わせたようなやつだ。……全編を通して、マジな恐怖で背筋が凍りつばなしになる」とステイヴンキングが激賞するこの作品で、ヒロインのエヴァンと恋人ジェシーは、お互いの愛を試される大きな危険にさらされる。事件の果てしなく悲惨な真相に、二人はどう立ち向かうのか?

ハイスクール時代の被曝事故

美術の野外学習でネイティブ・アメリカンの岩石線画を見に来たエヴァンたちは、偶然迷い込んだ地点で強烈な閃光を浴びる。それに続く軍の執拗な行動。20年近くたったいま、あのとき被曝したエヴァンらの健康状態を軍がずっと追跡していたことをエヴァンは知るのだが……。すべての鍵を握る極秘実験「サウス・スター・プロジェクト」とは? そしてその実験が生み出してしまったものとは?

エヴァン・デレイニーを巻き込む3つのキーワード

2005年に書かれた「死の同窓会」で描かれるキーワードは偶然にも、いま、私たちが放っておけないキーワードとも重なっている。でも、メグ・ガーディナーは強く主張している。「おぞましい事件や人の死は、小説の世界だけに止めておくべきよ」

お腹の子の運命

下半身不随の恋人ジェシーの子を妊娠したエヴァン。ところが両親は喜ぶどころか墮胎するよう懇願する。それは相手がジェシーだから? いや、裏にはもっと恐ろしい疑念があった。それは、相次いで亡くなった同窓生や、不気味な殺人者「コヨーテ」が狙うのが、みんな“母”や“妊婦”だという事実と関係しているようで……。エヴァンは自分自身を、そして、お腹の子を守りきれぬのか?

メグ・ガーディナーの良さを伝えなければ僕は死んだらゴラムニスト地獄に落とされる。ステイヴン・キング

ふるさと故郷で相次ぐ死

シャネル・ダラーバ / 肺炎
ティディ・ホロヴィッツ / 飛行機事故
リンダ・ガルシア / 長期闘病
シャーレイン・ジャクソン / 出産時の合併症
ダナ・ウェスト / 病院火災

懐かしもちょっと居心地の悪い同窓会の会場で、エヴァンが知った同窓生の相次ぐ死。するとそこに、痩せ細り変わり果てた姿の宿敵、ヴァレリーがやってくる。彼女が語る「脳にトンネルが……」とはどういうことか? そして、かつての仲間が旧交を温めているころ、同窓会に出席するはずだったケリーは自宅で切り刻まれようとしていた。犯人が冷淡に言う——痛みを感じたら教えなさい、と。犯人の目的は何だったのか?